

骨粗鬆症とビタミンDについて

岩橋 伸剛

(ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社 マーケティング部)

骨粗鬆症は、骨の強度が低下して骨折するリスクが大きくなる病気です。

骨粗しょう症になる人の割合は年齢が高くなるほど上がり、50歳以上の女性の3人に1人が骨粗しょう症にかかり、現在1300万人の患者さんがいるといわれています。

50歳以上の日本人女性では、3人に1人が椎体骨折を起こすといわれています。骨粗しょう症になると椎体以外でも骨折が起こりやすくなり、とくに太ももの付け根の場合、動けない状態が長期間にわたって続き、それが寝たきりの原因になると推測されています。

骨粗しょう症の原因の中でも最近注目が集まっているのが、ビタミンD不足です。ビタミンDは、カルシウムの吸収を助け、さらに、骨に吸着する働きもします。このように大切な働きをするビタミンDですが、日本人女性の血中のビタミンD量を測定してみると、約9割が不足・欠乏状態であることが報告されています。

このビタミンDの充足状態は、血液検査で知ることができます。今回はこの骨粗鬆症でのビタミンD測定についてご紹介します。